

**越山若水**

2021.9.15

読書の楽しみの第一は、伝記の  
楽しみであるかもしれません。

詩人の長田弘さんは最後の自選工  
ツッセー集「幼年の色、人生の色」

(みず書房)でそんな一文を書

き残している▼伝記としてまず挙げられるのは「偉人伝」だろう。幕末・明治維新のヒーロー西郷隆盛を語って、日本の夜明けの時代像を把握する。ナイチンゲールを語って、戦争と看護の真実に触れる。月面に降り立ったアームストロング飛行士を語って、科学の躍進を実感する▼しかし長田さんは1960年代を境に、ある変化が起きたという。チャールやドゴールといった「大」のつく政治家がいなくなつて以降、時代の記憶を物語る主人公は「人」ではなく「物」へと交代。偉人伝は消えてゆき、英雄伝はノスタルジーになつてしまった▼60〜70年代の日本を代表する人物はすぐに思いつかない。それでも物品ならば、軽乗用車「スバル360」や「カップラーメン」など即答できる。技術革新が目覚ましいとはいえず、時代を語るには商品の方が適任。それほど魅力的で風格あるリーダーは減少している▼さて自民党総裁選が17日告示され、いよいよ佳境を迎える。菅義偉首相が再選出馬をあきらめ、日本のかじ取りを任せられる新たなリーダーが誕生する。新型コロナウイルスも経済復活も出口が見えない難局。後々、時代を語る人物となれるのか、見ものである。